

## 教員養成教育認定（JASTE）

### 日本型教員養成教育アクレディテーション・システムの開発研究 第一期評価結果における教員養成機関の優れた取組について

はじめに　－「優れた取組」の公表に当たって－

教員養成教育認定（JASTE）は、日本の教員養成教育の開放制原則（多様な高等教育機関が制度上等しく教員養成教育に参画するシステム）を前提とし、主体的に教員養成に取り組む教員養成機関の内部質保証の推進をサポートすることにより、大学の枠を超えて学士課程段階の教員養成教育の水準を総体として維持・向上させることを狙いとしています。

このため、評価活動に際しては教員養成機関が自らの特長（良さや強み）を認識できるように配慮します。さらに、それらの特長を「優れた取組」としてまとめ、教員養成教育の水準の向上に意欲を有する他の教員養成機関が、自らを取り巻く環境や条件（規模や地域特性など）に応じて参照できるよう、公表することとしています。

これにより、多様な教員養成機関が、それぞれの特質を自覚しつつ、相互に学び合うコミュニティを発展させていくことを目指します。

このような趣旨から、当資料では、第一期評価を受けた教員養成機関の優れた取組を掲載します。

これらの取組を優れたものと判断した根拠やその詳細な内容は各教員養成機関の評価報告書や自己分析書を御参照ください。

#### 1. 岡山大学文学部

##### （1）全学的な組織体制の下での取組と自律的な改善システム

岡山大学文学部での教員養成教育は、教師教育開発センターと連携して行なわれている。同センターとの連携によって、学生の履修動向や免許状取得および教員採用状況などの諸調査を定期的に行い、同学部の学生の意識や教職課程教育の効果を検証しており、自律的・恒常的に教職課程の改善ができるシステムを構築している。

また、教職実践演習を教師教育開発センター教員と学部教員とがチーム・ティーチングによって開講しており、授業などの学生指導においても具体的に連携している。

##### （2）体系的な教員養成コア・カリキュラム

岡山大学の教職課程では、学部での専門教育に基づく「教科の専門性」と並行して、初

年次の「母校訪問」から始まる体系的な「教員養成コア・カリキュラム」が編成されており、教職に関する学習を積み上げていく仕組みが整備されている。

### （３）教職志望学生のニーズ等の把握と適切な支援

岡山大学文学部教職課程履修者の履修状況や教職志向、資質力量の自己評価などの諸実態を教師教育開発センターが節目ごとに調査し、同学部の教員 1 名も構成員となっている全学組織の教師教育開発センター教職課程運営委員会において、具体的、客観的に把握することができている。これが同学部の教職課程に関する主体的な取組を可能とする基礎となっているとともに、継続的な学生の履修の支援と指導の基となり、問題事例が生じた場合の情報共有も速やかに行われるなど、組織的な教職へのキャリア・サポートを可能としている。

### （４）専門教育と教育実践の連関を工夫する教育

岡山大学文学部では、学生教育にあたって、少人数指導を基本に据えて、課題発見・課題解決力の涵養を促す教育体制が整えられている。学部の専門教育科目における教職課程の位置付けについても、より明示的になるような改善の視点がある。

学部の演習等の授業において、テキストの適切な読解、論理的に物事を理解すること、あるいは自己の見解を他人に分かりやすく説明するための工夫を凝らすといった教育が行なわれており、そうした専門教育で培われた専門性と教科教育・教育実践における専門性を連関させるための工夫・努力が認められる。

岡山大学文学部評価報告書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/rep-okayama-bungaku.pdf>

岡山大学文学部自己分析書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/ana-okayama-bungaku.pdf>

## 2. 岡山大学理学部

### （１）一貫性と系統性のある教員養成コア・カリキュラム

岡山大学の教職課程では、4年間の教職課程を三つの時期（教職への意欲向上期→学校教育理解期→教育実践力養成期）に区分し、それぞれの期でねらいとすべき目標を設定するなど、一貫性と系統性のある教員養成コア・カリキュラムを実践している。

また、理学部の各学科で開設している授業科目の多くが教職課程の「教科に関する科目」であることから、教職課程履修者に対しては、この関係を学生自らが有機的に結びつけられるような工夫に取り組んでいる。

## (2) 教職志望学生の主体的なキャリア形成を促すシステム

岡山大学の教職課程では、教職志望学生を対象として教職への適性を自己省察する機会が計画的・継続的に付与され、学生は初年次から自己の適性或教職についての考察を深めることができている。特に、初年次の「母校訪問」を通して、学生が自発性と主体性を基本としつつ、教員免許取得に関わる4年間の学修の全体像をとらえることができ、他方で教職への適性を主体的に判断することが可能となっている。「母校訪問」が、教職課程への学生の導入に関するシステムとして丁寧に構築されている点は、先駆的な取組である。

## (3) 全学的な組織体制に基づくカリキュラム編成とキャリア支援

岡山大学理学部が教職課程を運営していくうえで、教師教育開発センターとの連携は大きな役割を果たしている。例えば、教員養成コア・カリキュラムを構成する授業科目の前後で、学生は、教師教育開発センターが作成した「教職実践ポートフォリオ」を使用して教職に対する自らの力量を自己評価する。それに基づいて理学部の指導教員が定期的に学生の面談を行い、教職課程の履修状況を把握するとともに、教職に対する学生の意欲や適性をめぐって必要な指導を行っている。また、教職実践演習は、その内容を開発した教師教育開発センターの「研究者教員」と「実務家教員」、理学部の全教員が参加し、三者によるチーム・ティーチングとして開講している。教科専門担当教員（理学部教員）が教職に関する必修科目に直接参画し協働する仕組みを実践していることは高く評価できる。さらには、教師教育開発センターが、カリキュラムのそれぞれの段階において継続的に実施している教職課程履修者対象の意識調査によって、同一学年の経年変化の把握に努めている点も評価できる。

岡山大学理学部評価報告書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/rep-okayama-rigaku.pdf>

岡山大学理学部自己分析書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/ana-okayama-rigaku.pdf>

## 3. 玉川大学工学部

### (1) 全学的な組織体制の下での充実した学生指導

玉川大学工学部は、教師教育リサーチセンターと密な連携を図りながら、教員養成教育を推進している。具体的には、教職課程受講学生の様々な学修情報に関して、工学部と教師教育リサーチセンターとの間に明確な連絡・調整ルート（例えば、工学部における教職担当教員の存在）が確立されている。密な連携を通じた情報共有・交換により、教職に向けた学修の実態を多様な側面から把握し、それを基に学生指導ができる仕組みを有しており、充実した学生指導が可能となっている。教職課程受講学生に対する指導・相談が、相

互に連携した多様な大学教員（担任、教職担当教員、研究室教員、教師教育リサーチセンター教員等）によって担われているため、学生は自己の折々の学習ニーズに合わせた相談ができ、教員も学生の学修に関する情報をお互いに共有した上で指導・相談を行うことが可能となっている。

### （２）教職を重要な進路の一つと位置付けた多様なキャリア支援

平成 26 年度に開設された「数学教員養成プログラム」の存在に表れているように、教職を重要な進路の一つとして位置づけており、多様な指導・支援方策が採られている。例えば、教職課程受講学生専用の学習スペースを準備し、主体的な学びを促進する環境を整備している点、工学部としての教職課程受講の継続条件（累積 GPA、数学検定の活用、大学教員による総合的な判断等）を明確に定め、適切に運用している点などが挙げられる。教職課程受講の継続条件を多様な観点から設定することによって、安易な教職課程の履修を避けるとともに、教職への適性を多様な側面から判断することが可能となっている。

### （３）教職志望学生の主体的なキャリア形成を促す支援

1 年次から 4 年次にわたるガイダンスや講義等の機会を利用しながら、大学教員が学生の教職に対する意欲や適性を確認できるだけでなく、学生自身もそれらを確認・自覚できるように、適切なキャリア・サポートが提供されている。学生自身が教職への適性を確認・自覚できるようにしていることや、教職課程受講学生専用の学習スペースでの自主的な学修活動を通して、学生の教職に対する意識を高めることができている。

玉川大学工学部評価報告書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/rep-tamagawa-kougaku.pdf>

玉川大学工学部自己分析書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/ana-tamagawa-kougaku.pdf>

## 4. 北海道教育大学教育学部釧路校

### （１）地域のニーズや教育課題を反映したカリキュラム編成

北海道教育大学教育学部釧路校は、平成 18 年以降、主に小学校を中心とした教員養成を担っている。同校周辺地域にはへき地・小規模校が多く、これに対応したプログラム開発に取り組むとともに、地域教育に重点を置いた実践的な指導を展開している。

具体的には、複数の教員免許の取得を推奨するとともに、学力差やインクルーシブ教育にも対応できるような教員養成を行っている。このことは、単にそれらに対応する教員を養成することにとどまらず、一般の学級経営や生徒指導等においても力を発揮する教員養成につながると考えられ、他の教員養成機関にも参考になる。

## (2) 実践的な力量形成のための体験型プログラムの実施

実践力の育成に関しては、教育委員会と連携・協働しつつ実地教育の一環として、第1年次から毎週1回学校現場体験「教育フィールド研究」を実施するなど、教員養成教育における早い段階から理論と実践の往還をねらった先駆的な取組が実施されており、高く評価できる。「教育フィールド研究」はすでに地域にも十分根付いている。また、教職の適性が乏しい学生を早期に発見し、本人に自覚させるとともに適切な個別指導を行うことにより、教職への意欲の向上・改善を図る契機ともなっている。また、アカデミック・アドバイザー等の指導助言により、教職以外の進路指導についても配慮がなされている。

## (3) 教員養成教育の質向上のための恒常的な改善努力

同校では、その組織力を恒常的に改善・向上させるために、内部組織の構造を改めたり、FD研修や新人教員研修の改革に努めたりするとともに、平成27年度より、5年に1回ずつ全大学教員が附属学校も含めて年間30時間「学校現場にかかわる」システムを義務化するなど、養成すべき教員像や同校の特色を念頭に置いた構成員の合意を図るべく、改善の努力が認められる。加えて、教員養成教育の質向上のために、例えば、入学前教育を強化したり、SEQ (Student Emotional Quotient) や進路意向調査を実施したりしている点は特筆できる。

北海道教育大学教育学部釧路校評価報告書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/rep-hokkaido-kyoiku.pdf>

北海道教育大学教育学部釧路校自己分析書

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jastepro/html/project/pdf/2014/ana-hokkaido-kyoiku.pdf>